

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	6年 外国語科 Here We Go! Unit 5 He is famous. She is great. 1/6H
②教科書を活用した授業づくりの工夫(高学年)	京都市立西陣中央小学校 6年担任 薬師寺 千賀子

目的を明確にした言語活動の設定～「教科書の活動」を「自分事」にするために～

社会科で「世界で活躍する人」を学習したり、卒業文集等で尊敬する人について取り上げたりすることもある6年生。「あこがれる人」や「すごいなと思える人」にはこれまでもたくさん出会ってきたはずですが。教科書では、そうした人物になりきって紹介する「なりきりトークショー」がゴールの活動として設定されています。しかし、教科書に例示されている人物は、子ども達には少し遠い存在のように見受けられました。また、なぜ紹介し合うのか、という点にも必然性をもたせたいと考えました。本クラスの児童は落ち着いているけれど、ワツとはじけたり感情を表したりすることは少し苦手です。だからこそ、自分たちが表現することを楽しくできる単元にしたいと考え、教科書の活動例をより自分たちの生活に結び付くような場面設定にしたり、目的を明確にしたりして、意欲的に取り組めるようにしたいと考えました。

そこで単元の導入時に、以下の3つのことを提示しました。

【第1時】言語活動と出会わせるときの工夫

- ① 「タブレットを使ってトークショーを動画に撮り、学年みんなで鑑賞会をしよう!さらに、個人懇談会に来られる保護者の方にも学習成果を見てもらおう!」と提案し、「よいものをつくりたい」「自分の本当に好きな人を紹介してみたい」「他のクラスとのやり取りが盛り上がるよう、おもしろくしてみたい」と活動への意欲を引き出すようにしました。
- ② 「コロナ禍でなかなか海外から日本に来られない状況だけれど、落ち着いたら日本に来たい、日本のことを知りたいと思っている人が多いと新聞に載っていたよ」「京都に来られるようになったときに、きっと日本のこと、京都のこと、西陣のことを教えてほしいと言われるよ。その時、場所だけじゃなくて日本のすごい人を紹介できれば会話も広がるね」など起こりうる場面を語り、本単元の言語活動の意味付けをしました。
- ③ トークショーのイメージをつかみ、既習の表現を利用することで、人の紹介ができるという見通しをもてるように指導者の例も示しました。その上で、Who is your Japanese hero? と児童に尋ねることで、歴史上の人物や芸能人、ひいては総合的な学習でお世話になった西陣の地域で広く活躍している方々など、児童が本当に紹介したい人を引き出すようにしました。児童は不安そうでしたが、職業や好きなものをやり取りに入れることで紹介できそうという気付きもしていました。



【第2時以降】トークショーでのやり取りにつなげるためのスモールトーク



毎回の授業で I like ~. I have ~. What ~ do you want? などの既習表現を使った子ども同士のスモールトークを取り入れていきました。初めは尋ねられたことだけに答えたり、日本語の補足説明がたくさん入ったりしていました。だんだん、ジェスチャーで補ったり、返ってきた返事からさらに質問したり、何とか知っている言葉を使って言い表そうとしたりする姿が見られるようになってきました。知っている表現に対する安心感と、それらを使ってのチャレンジも楽しめるようになってきました。

意欲付け→具体を示す→やってみる:教科書の展開を利用しながら

学年の担任や ALT の協力を得て、教師のスモールトークやトークショーの様子を動画にし、スモールトークの時に示しました。児童は、トークショーに向け、「頑張ったらトークショーできそう。楽しみ」「先生の面白かったし、あんな風にゲストの言葉に反応を返してトークを進めようと思う」と前向きに進めることができました。

指導助言・アドバイスコナー

高学年では外国語科導入に伴い、教科書を活用した授業展開が行われています。小学校外国語教育において初めて教科書を活用しての授業実施であることから、デジタル教材も含めかなり丁寧な教科書作りがなされているように思います。教科書通りに指導を行うこともあり得ますが、これまで文部科学省が作成してきた教材例、「英語ノート」「Hi, friends!」「Let's Try!」「We Can!」についてもお伝えしてきたとおり、目の前の子供の実態に合わせて教科書等をアレンジして活用することが大切です。本実践では、薬師寺教諭が他教科等での学びを生かし、目の前の子供の実態に合わせた「相手意識」「目的意識」のある言語活動を展開しています。

(文部科学省 視学官 直山木綿子)